



厚生労働省 三重労働局発表

平成 30 年 11 月 29 日(木)

担 当	厚生労働省三重労働局職業安定部
	職業安定課長 田中 秀治
	職業安定課長補佐 富山 晃伸
	地方労働市場情報官 吉原 健一
	電話 059-226-2305

報道関係者 各位

「雇用情報モニター報告集計結果(平成 30 年度第 3・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年 4 回（四半期毎）提出いただいております。

このたび、平成 30 年度第 3・四半期（30 年 10 月～12 月）実績見込み及び次期（31 年 1 月～3 月）見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

調査結果 主な項目の概要

○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 25.0%で減少、「減少」が 18.3%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 6.7。前期と比べ 10.0 ポイント下降。次期見通しは 20.0 で上昇予想。

○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 30.2%で減少、「減少」が 25.4%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 4.8。前期と比べ 11.0 ポイント下降。次期見通しは 6.3 で上昇予想。

○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が 25.0%で減少、「減少」が 13.3%で増加。D I（「増加」－「減少」）は 11.7。前期と比べ 13.3 ポイント下降。次期見通しは 25.0 で上昇予想。

○ 設備投資の見込み

「ある」が 41.9%で 10.5 ポイント減少。「ない」は 38.7%で 7.0 ポイント増加。D I（「ある」－「ない」）は 3.2 で 17.5 ポイント下降。

○ 従業員の過不足判断

「過剰」が横ばい、「やや過剰」が横ばい、「不足」が減少、「やや不足」が増加。D I（「過剰」－「不足」）は▲46.9 となり、0.7 ポイント上昇（不足判断が減少）。次期見通しは▲41.9 で「不足」判断は減少の予想。

○ 雇用調整の状況

実施事業所は 5 事業所（8.3%）で、前期の 2 事業所（3.2%）から増加。

○資料

別添 「平成 30 年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
 - ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
 - ・調査時期 平成 30 年度第 3・四半期実績見込み及び次期（平成 30 年度 1 月～3 月）見通しについて
 - ・モニター内訳 建設業 2、製造業 48、運輸業 2、小売業 7、サービス業等 5、事業主団体等 7
 - ・回答状況 民間企業 64 社、事業主団体等 6 団体
- （注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

平成30年度 雇用情報モニター報告集計

平成30年度 第3・四半期
三重労働局職業安定部職業安定課

30年度第2・四半期(30年7月～9月 以下前期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりましたが、30年度第3・四半期(30年10月～12月 以下今期)においても、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)は下降したもののプラスとなりました。

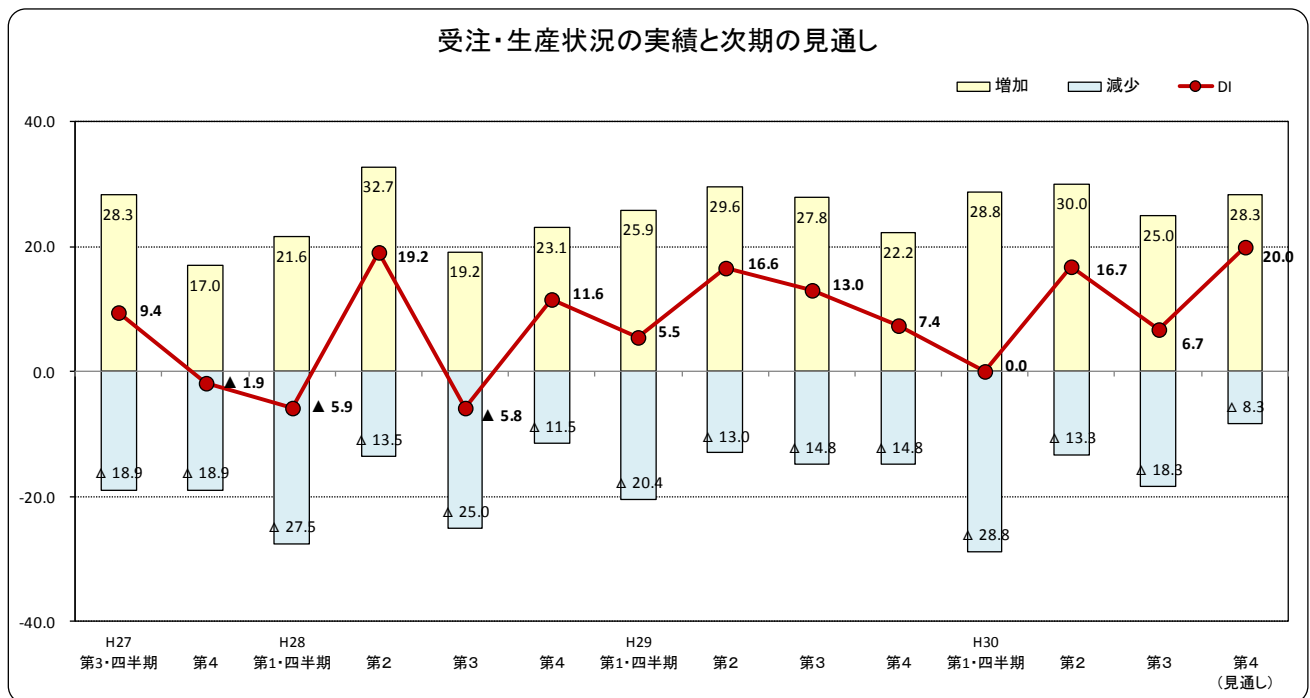
次期の予想においては、「受注・生産状況」「企業収益の状況」等多くの指標で上昇の見通しとなっています。

1. 受注・生産動向について

【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が25.0%、「減少」が18.3で、D I(「増加」-「減少」)は6.7となり、前期と比べ10.0ポイント下降したものの、2期連続でプラスとなりました。

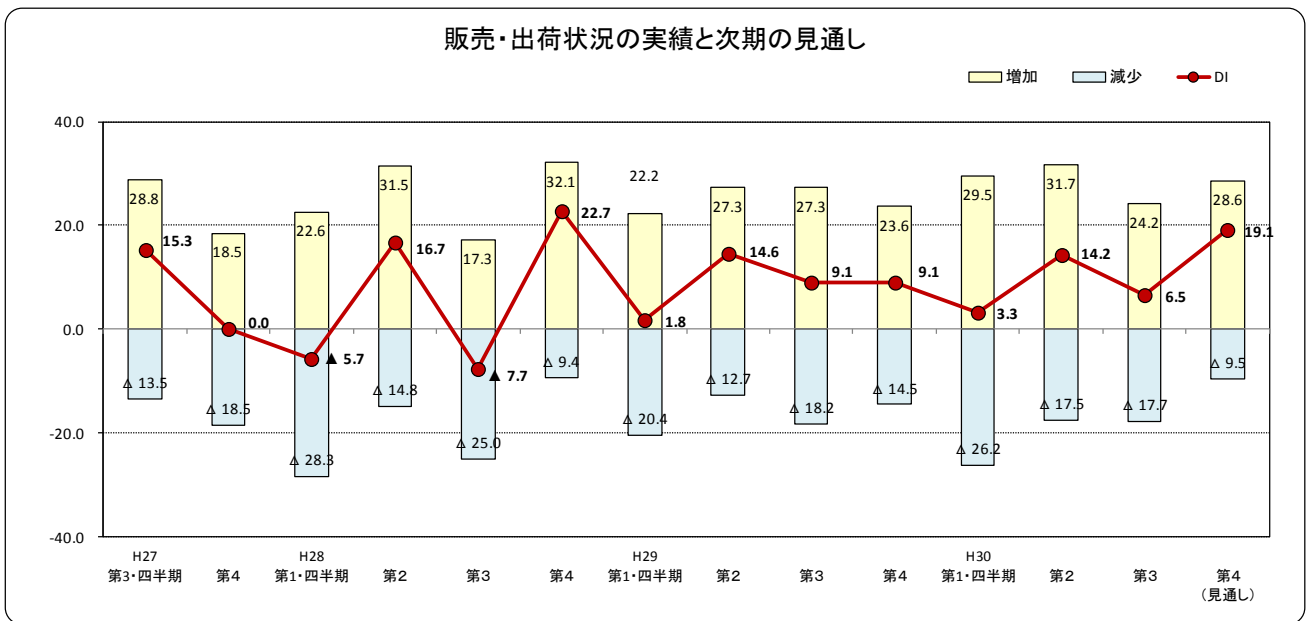
次期の見通しについては、D Iは20.0で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が24.2%、「減少」が17.7%で、D I（「増加」-「減少」）は6.5となり、前期と比べ7.7ポイント下降したものの、8期連続でプラスとなりました。

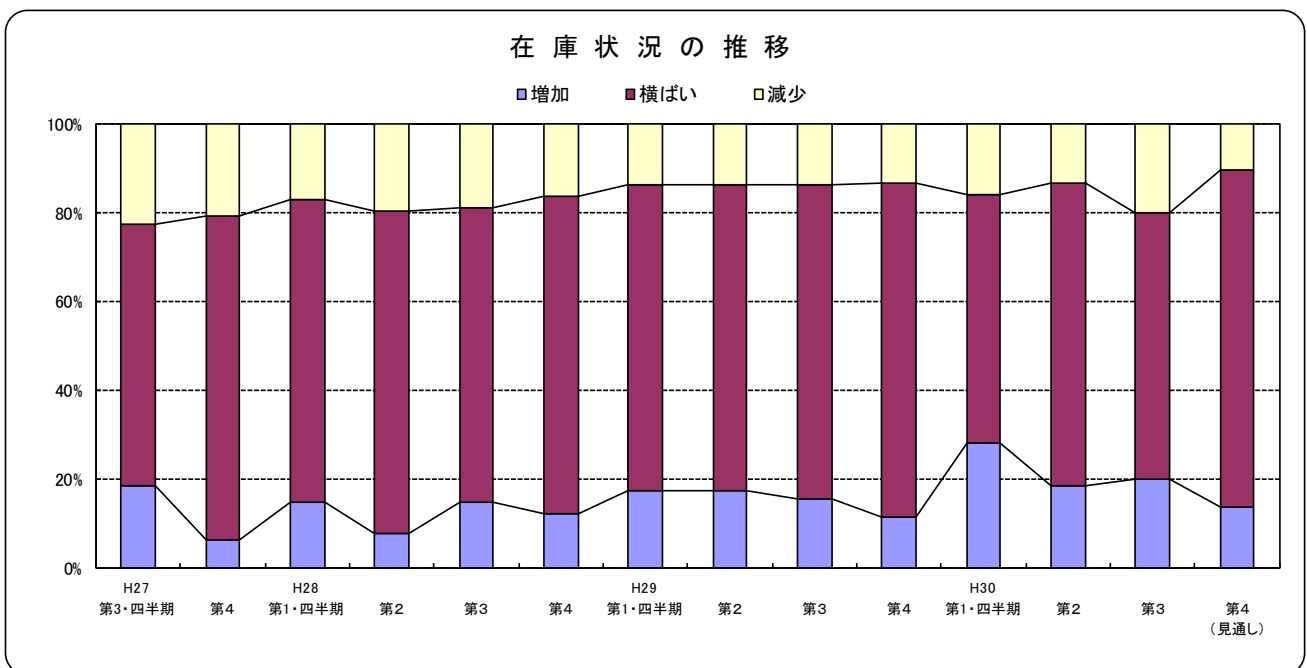
次期の見通しについては、D Iは19.1で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が増加、35期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が増加し、「増加」が減少する予想となっています。

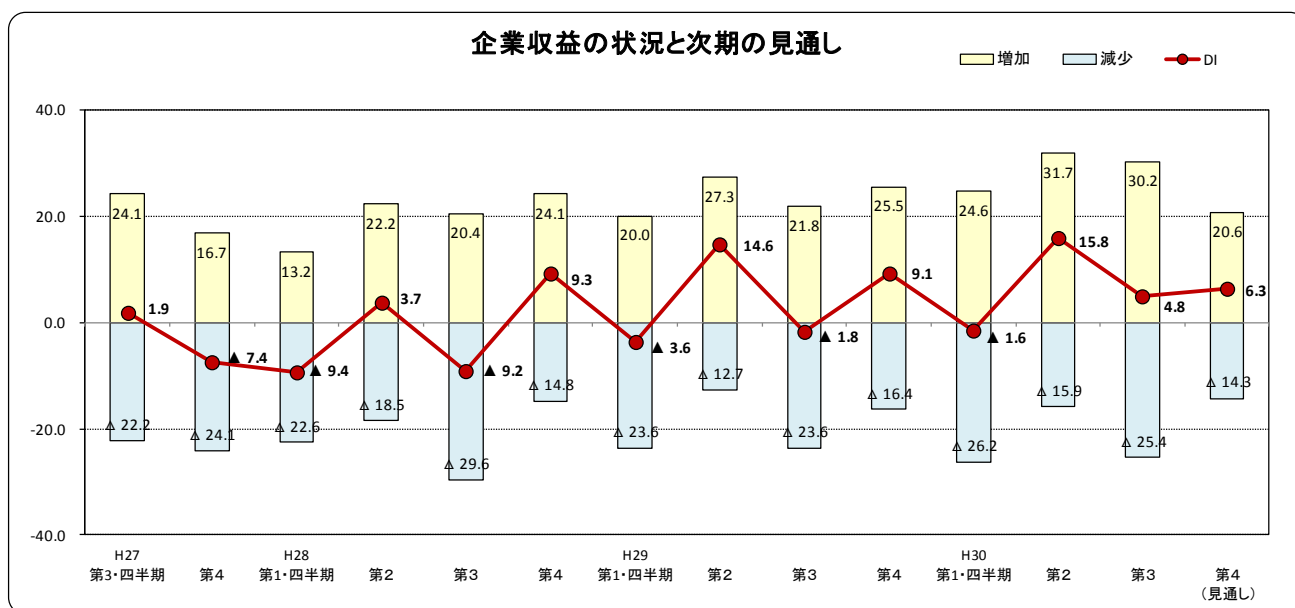


2. 企業活動の状況について

【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が 30.2%、「減少」が 25.4%で、D I（「増加」－「減少」）は 4.8 となり、前期と比べ 11.0 ポイント下降したものの、2 期連続でプラスとなりました。

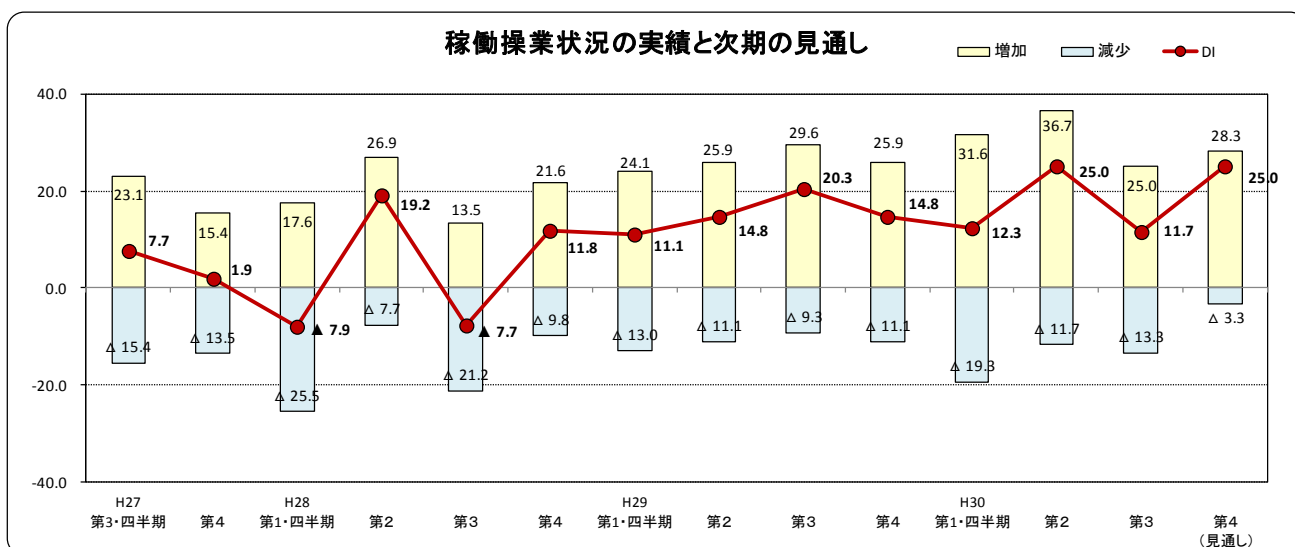
次期の見通しについては、D I は 6.3 で、上昇する予想となっています。



【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

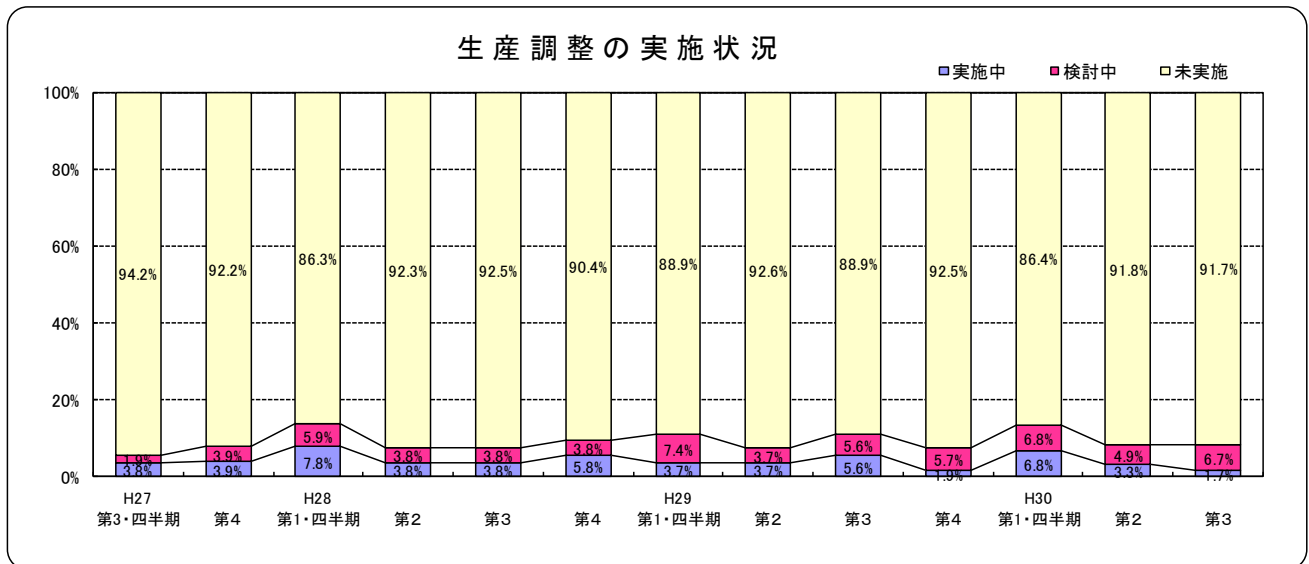
今期の稼働操業状況では、「増加」が 25.0%、「減少」が 13.3%で、D I（「増加」－「減少」）は 11.7 となり、前期と比べ 13.3 ポイント下降したものの、8 期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D I は 25.0 で、上昇する予想となっています。



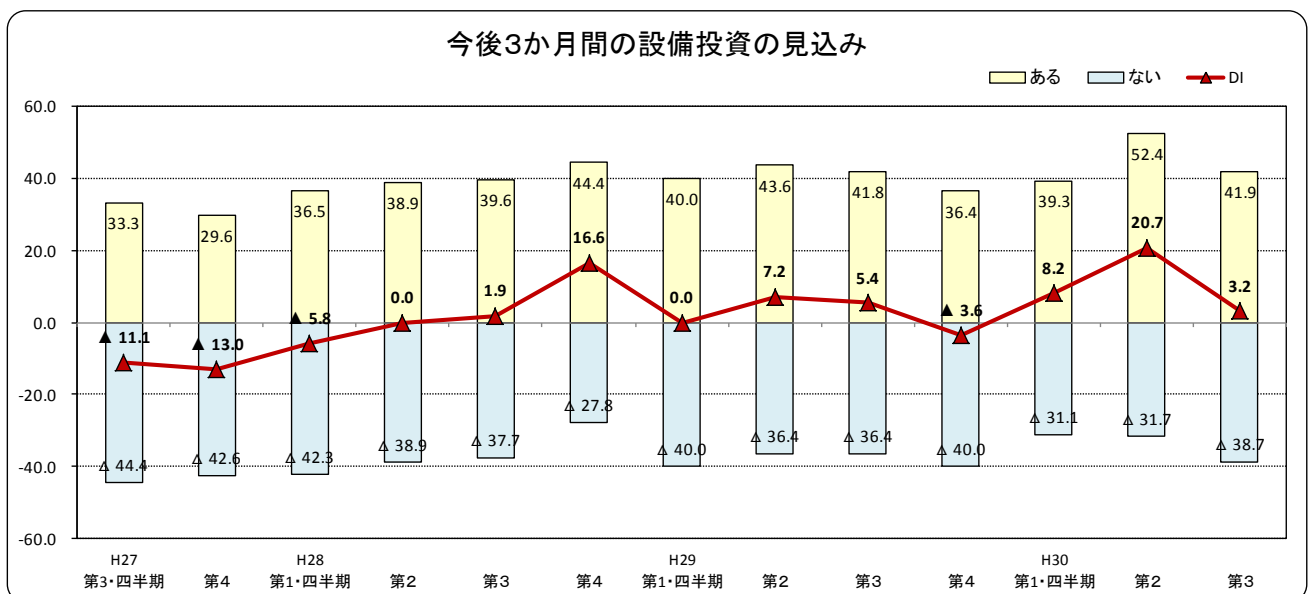
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は91.7%で前期と比べ0.1ポイント減少、「検討中」は6.7%で1.8ポイント増加、「実施中」は1.7%で1.6ポイント減少となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は41.9%で前期と比べ10.5ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は38.7%で7.0ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は3.2となり、前期と比べ17.5ポイント下降しました。

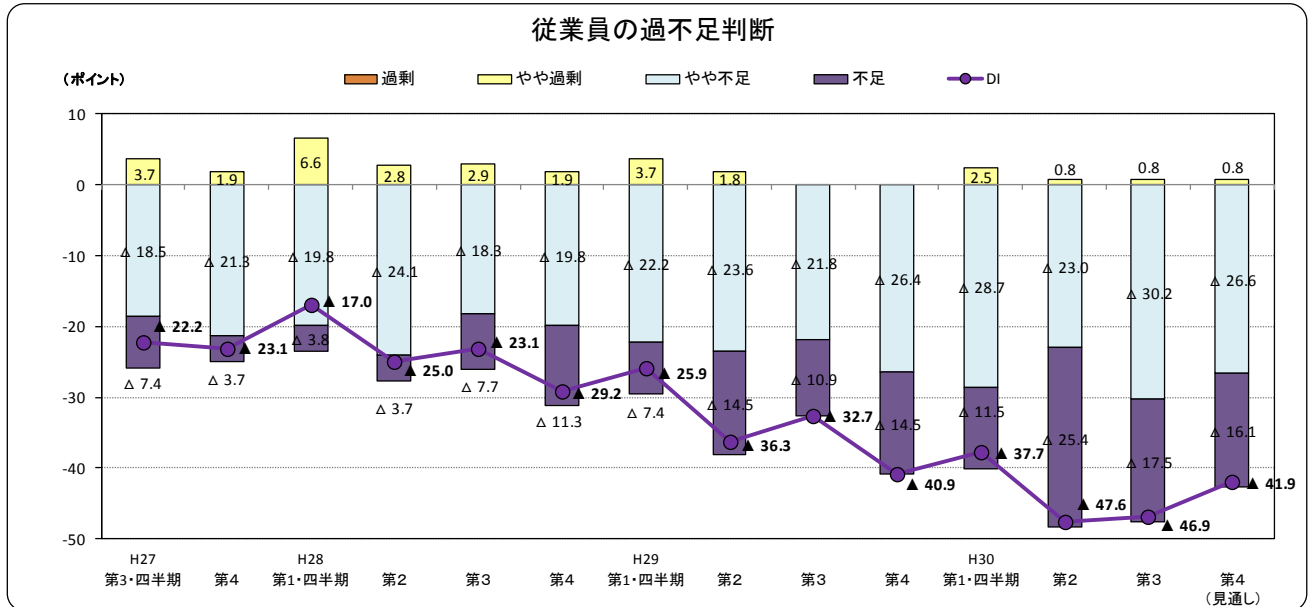


3. 雇用動向について

【従業員の過不足判断】

「過剰」は 0.0 ポイントで横ばい、「やや過剰」とする事業所は 0.8 ポイントで横ばい、「不足」は 17.5 ポイントで 7.9 ポイント減少、「やや不足」とする事業所は 30.2 ポイントで 7.2 ポイント増加したため、D I（「過剰」-「不足」）は▲46.9 となり、前期より 0.7 ポイント上昇（不足判断がやや減少）し、2 3 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

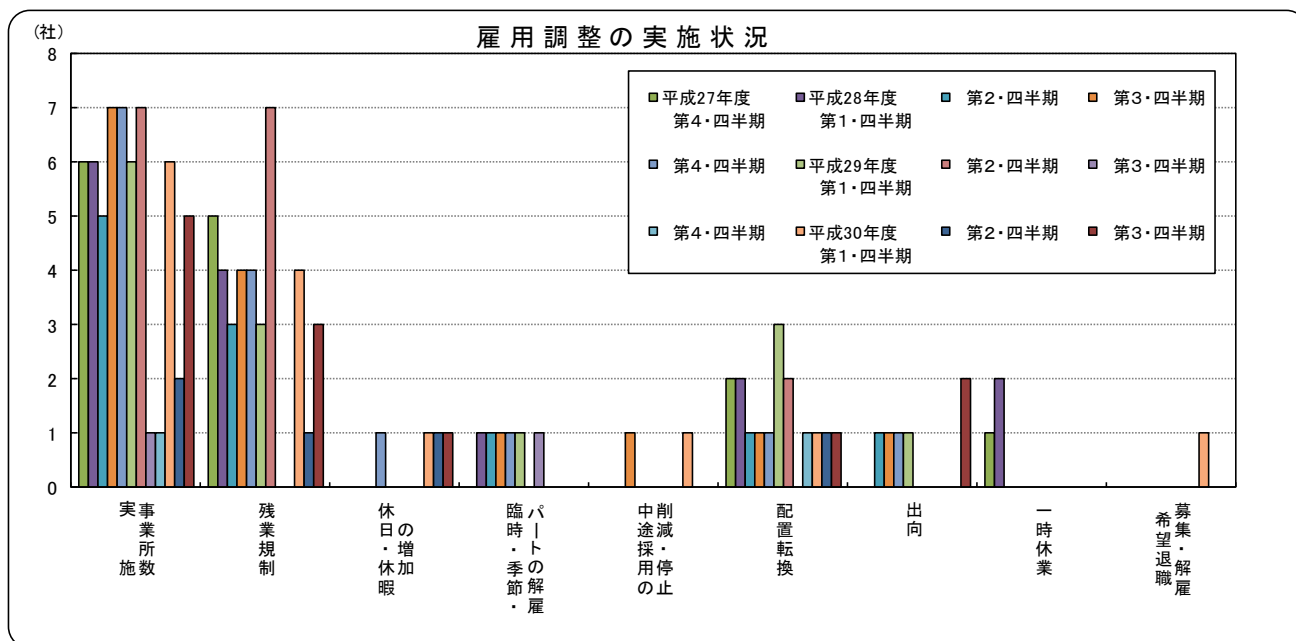
次期の見通しについては、D I は▲41.9 で、「不足」判断は減少の予想となっています。



【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 5 事業所 (8.3%) で、前期の 2 事業所 (3.2%) から増加しました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成27年度 第4・四半期	52	45	1	6	5	0	0	0	2	0	1	0
平成28年度 第1・四半期	48	40	2	6	4	0	1	0	2	0	2	0
第2・四半期	52	44	3	5	3	0	1	0	1	1	0	0
第3・四半期	51	43	1	7	4	0	1	1	1	1	0	0
第4・四半期	53	45	1	7	4	1	1	0	1	1	0	0
平成29年度 第1・四半期	51	42	3	6	3	0	1	0	3	1	0	0
第2・四半期	53	45	1	7	7	0	0	0	2	0	0	0
第3・四半期	55	52	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
第4・四半期	53	52	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
平成30年度 第1・四半期	60	54	0	6	4	1	0	1	1	0	0	1
第2・四半期	62	58	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0
第3・四半期	60	53	2	5	3	1	0	0	1	2	0	0



<主なコメント>

- 個食化、即食化が進み、かつ食への安全安心要望が更に高まり、生産の増減が激しい (製造業)
- 客先の生産好調もあり、受注生産共に増加。次期も新規受注があり、増加になる。 (製造業)
- 東北地方の復興工事の受注が相変わらず好調であり、県内の公共工事の受注もあり、来春までは生産、販売が持続する。 (製造業)
- 今期以降で試作品から量産への切りかわりが順次行われ、受注額・量は増えていく見込。ただし、利益率は悪化する。 (製造業)
- 期末生産集中対策として、今期へ前倒しし、生産の平準化を図っている。 (製造業)
- 現在の工場の敷地内に新工場を建築するとともに、県外に新工場建築のための用地を取得し将来の大幅需要の拡大に備える。 (製造業)
- 電気料金の値上がり、原材料価格(石油関連)の高騰、又最低賃金上昇による人件費の増加が大きく収益を圧迫している。 (製造業)
- 収益につながる販売状況が更に厳しくなると予測できる。 (小売業)
- 収益は厳しい状況が続いており造り方改善に取組中 (製造業)
- 人手不足による代替人材手配による人件費の増。 (製造業)
- 収益状況が厳しい業界のため、最低賃金上昇への対応も厳しい。 (協同組合)
- 順調に求人応募もあり、やや不足感はあるが問題がある程度ではない。 (製造業)
- 慢性的な人手不足が続いている。 (小売業)
- 接客サービス(仲居係)、レストラン係の不足感が依然大。 (宿泊・飲食サービス業)
- 一部の職種で引き続き不足感がある。余剰感の出ている職種において雇用調整を図っている。 (製造業)